

1 山梨県内公共図書館の概況 <令和4年度>

市町村立図書館の動きとしては次のようなものがある。北杜市では図書館適正配置等検討委員会を設置し、7月から3月にかけて5回の会議を開催し、図書館の集約あるいは質的な強化を図るための検討を行った。山梨市立図書館は8月にSNSによる情報発信を開始、9月には図書館システムやホームページシステムを更新して、案内用タブレットの導入も行った。南アルプス市立中央図書館は10月～11月、空調設備工事のため休館した。甲府市立図書館は11月に電子書籍サービスを開始し、小説や実用書、ビジネス書、子育てに関する本、絵本など幅広いジャンルの本を400冊用意した。都留市、甲州市、身延町が4月に、韮崎市、中央市、富士川町が3月にそれぞれ子ども読書活動推進計画を策定した。

令和5年2月末、公民館図書室として活動してきた富士川町民図書館が閉館。令和5年7月に富士川町立図書館として開館するため準備を進めている。

甲州市立塩山図書館分館（甘草屋敷子ども図書館）では開館20周年事業として11月から絵本作家のいしかわこうじ氏の企画展を開催。12月にはいしかわ氏によるワークショップ&読み聞かせトークLIVEを開催した。

県立図書館の動きとしては2012年に甲府駅北口に移転開館してから10年が経過したことを記念し、新館開館10周年記念事業を実施した。事業のためのふるさと納税型クラウドファンディングを実施し、企業版ふるさと納税と合わせて約107万円の寄附を得た。11月には県出身の作家・辻村深月氏と阿刀田高名誉館長、金田一秀穂館長によるトークショーや、10年間を振り返る写真展を開催し、指定管理者関連事業としても8月にアニメ「スーパーカブ」展示会・朗読会等を開催した。3月には山梨ゆかりの著名人が寄稿した記念冊子「贈る本」を発行した。

11月のトークショーの前には、「第9回贈りたい本大賞」として、応募総数4,641点から大賞3点を決定し、表彰式を行った。また2月には酒井順子氏講演会&金田一秀穂館長とのトークショーを開催した。施設・運営に関しては9月から指定管理者事業「図書館ピアノ」を開始し、閲覧エリア休館日に、館内の電子ピアノを自由に弾くことができるようになった。2月に地下書庫へ電動式移動棚の増設を行った。3月にはマイキーIDを活用したマイナンバーカードでの資料の貸出も開始した。

その他の動きとして、山梨県公共図書館協会と地元自治体が主催する「山梨県図書館大会」が、3年ぶりに大月市で対面開催され、登山家・野口健氏による講演会と、障害者サービスに関連する2分科会が設けられた。館種を問わず172人の参加があった。

山梨県教育委員会は、県内の各地域特有の歴史や文化、人々の体験など、地域を形成してきた先人たちの記憶や物語を、図書館が核となって記録・収集し、保存、活用していく「山梨ふるさと記憶遺産プロジェクト」をスタートした。令和4年度は甲州市および市川三郷町をモデル自治体に選定し、甲州市は「ぶどうとワイン」を、市川三郷町は「祭り」をテーマに地域の方々に取材を行い、3月に冊子を刊行した。

新型コロナウイルス感染症への対応としては、継続して検温、パーティションの設置、滞在時間や座席の制限などの対応が取られていたが、非接触型設備への改修や空気清浄機の導入、研修会等のオンライン化、参加人数の限定や座席の工夫によるイベントの再開など、ウィズコロナへの対応が進んでいる。

2022年度にかかる新型コロナウイルス感染症対応の動き

山梨県では「新型コロナウイルス感染拡大防止への協力要請」を前年度から継続して発出中。

令和4年8月10日 山梨県、医療提供体制を堅持するための臨時特別協力要請を発出。

(8月31日まで)

令和5年1月11日 山梨県、医療提供体制を堅持するための臨時特別協力要請を発出。

(1月31日まで)

令和5年3月9日 山梨県、新型コロナウイルス感染拡大防止への協力要請を改訂し、マスク着用を個人の判断に委ねることなど方針の見直しが行われた。(適用は3月13日から)